

第3回 穴水町地域公共交通協議会 議 事 概 要

平成 21 年 3 月 8 日（日） 9：30～11：00

場所：穴水町役場 1階 会議室

	所 属	氏 名	出欠
委 員 会 メ ン バ ー	穴水町 副町長 【会長】	大霜 祥栄	○
	金沢大学 教授 【副会長】	高山 純一	○
	石川県奥能登土木総合事務所 維持管理課長	坂本 富士雄	○
	(社)石川県バス協会	西宮 義人 (代理) 岩崎 幸男	○
	のと鉄道(株) 代表取締役	鷺嶽 勝彦	○
	石川県タクシー協会 監事	近藤 豊	×
	穴水町 区長・町内会長連絡協議会 会長	村上 太一	○
	穴水警察署 交通課 課長	西川 忠	○
	北陸信越運輸局 石川運輸支局 主席運輸企画専門官	内田 裕二	○
	石川県 企画振興部 新幹線・交通政策課 課長補佐	中田 重幸	○
穴水町 商工会 副会長	吉村 多作	○	
	北陸信越運輸局 企画観光部交通企画課 課長 (オブザーバー)	上出 研治	○
事 務 局	企画情報課 課長	吉間 篤	○
	# 課長補佐	黒崎 誠	○
	# 課長補佐	岡崎 善二	○
	(株)日本海コンサルタント	中田 和彦	○
	#	眞島 俊光	○

議事次第

1. 開会
2. あいさつ（大霜会長、高山副会長）
3. 議事
 - (1) アンケート調査結果について 資料-1
 - (2) 福井県大野市への視察結果の報告について 資料-2
 - (3) 穴水町地域公共交通総合連携計画素案について 資料-3
 - (4) 再編計画（案）について 資料-4
 - (5) その他
4. 閉会

主な発言（検討）内容

■ 大霜会長挨拶

大霜会長：休日の朝早くから協議会に参加頂き感謝する。

先日、福井県大野市の視察などを通じ、今後、公共交通の運行方法などを変えても、急激に財政や利用状況が改善するわけではないと感じたが、投資した分だけは、住民の利用があるような公共交通にしていきたい。

■ 高山副会長挨拶

高山副会長：先日、北陸地方運輸局において、北陸地域の公共交通連携計画についての第3者委員会に出席し、審議を行ってきた。

穴水町に対しては、住民の意見を聞く機会を増やしたり、協議会での検討内容を住民にフィードバックする機会を設けるべきではないかとの意見が出されており、今後は、住民の意見を聞くような仕組みを取り入れていくべきである。

■ アンケートについて（資料1）

高山副会長：中学校や高校、病院の位置などにより、利用状況が地域ごとに異なることが分かった。

住民の移動に必要な最低限の公共交通はあるが、バスがあっても便数が足りない等の理由から、親（世帯主）が送迎する割合が高いため、改善の必要があることが分かる。

大霜会長：公共交通の利用目的は、病院や学校への交通手段がメインとなっている。住民からの意見では、バスは運行しているものの、バス停まで遠いため、子供を送迎しなければならないといった声も聞いている。

■ 大野市への視察について（資料2）

大霜会長：市の規模は異なるものの、公共交通の現状などは本町と似た状況にあると感じた。

吉村委員：穴水町は福祉バスがあり、日中はあまり乗っていないが、時間帯によってはかなりの人数が乗っている。大野市ではマイクロバスで運行しているのか。

コンサル：1便当り1～2名の乗車人数のため、小型タクシーで運行している。

吉村委員：穴水町も乗車人数に応じて車両のサイズを検討すべきである。

鷲嶽委員：乗合タクシーを委託しているタクシー会社は、各地に支所があるのか。

大霜会長：支所等はなく、まちなかから出発している。

高山副会長：大野市では、1回あたりの運行経費が大型車では7,500円、小型車で5,000円となっているが、距離単価で計算していないか。

コンサル：距離ではなく、1回当りで契約している状況である。

大霜会長：北海道の伊達市でも同じ状況である。

鷲嶽委員：1回5,000円は高い金額設定である。

吉村委員：1人しか乗客がない場合は、市が残りの4,600円を補てんすることになるのか。

コンサル：そうである。

大霜会長：町の負担が大きすぎるのは良くないと思う。また、大野市のやり方では本当に乗合タクシーが運行しているか、タクシー会社をチェックができない状況である。

鷺嶽委員：穴水町のスクールバスは日中どのように利用しているのか。

西宮委員：スクールバス専用ではなく、路線バスと兼用している。

■ 連携計画・路線再編計画について（資料 3・4）

高山副会長：P31 に「利用しやすい環境」とあるが、それを実行するためには、以下の 3 点について検討が必要である。

- ①高齢者はステップがあると乗車が困難であるため、ノンステップバスの導入を早期に検討すべきである。
- ②NP0 有償運行については、実際に運行するまでには時間がかかると考えるが、現段階から組織づくりや検討を始める必要がある。
- ③高齢者のデマンド型への対応が難しいため、地元とよく協議すべきである。また、東部線については、まずは定時運行から始め、徐々にデマンド運行に変えていくべきである。

大霜会長：路線再編により、便利になったことが実感できるようにする必要がある。

西宮委員：事業者としても路線が複雑であるため、東部線を再編してもらいたい。

鷺嶽委員：東部線の路線再編は良いと考えるが、乗換えが問題である。

吉村委員：河内線と四村線や東部線の再編を検討しているが、高齢者は 1 回バスに乗るだけでも苦痛であり、乗換えは難しいと考える。また、福祉バスは低床バスであるが、路線バスはそうでないため、高齢者としては路線バスは使いにくい。便数を増やす、減らすだけでなく、これらの問題も検討すべきである。

大霜会長：四村線・河内線および東部線の再編は、すぐに始めるわけではなく、今後検討していくための一つの案という意味である。

事務局：会長の言う通り、詳細な検討は、今後行う。

鷺嶽委員：平成 21 年度には社会実験をするのか。

大霜会長：そうである。事務局から、スケジュールについて説明してもらいたい。

事務局：平成 21 年度の 10 月に四村線・河内線の再編の実証運行を開始する予定である。また穴水駅に電子総合案内板を設置する予定である。平成 22 年度には東部線再編の実証運行を行う予定である。

内田委員：3 月 26 日までに連携計画を運輸局に提出してもらいたい必要がある。

事務局：本来なら、本日の内容をもとに修正した計画を再度審議する必要があるが、時間の関係上、修正した資料を委員に送付し、意見があれば聞くなどの対応をしたいと考えている。

大霜会長：事務局からの提案についてであるが、この対応でよいか。

一 同：良い。

中田委員：高山副会長とは、別途協議し、内容を詰めるべきである。

事務局：了解した。

内田委員：時間がないため、事務手続きなども着実に進めてもらいたい。

大霜会長：忙しい中、熱心に議論頂き感謝する。本日はこれで閉会とする。

—以上—

■ 第3回協議会の様子 ■

